

上条

報告

第28号

平成23年9月

甲州市教育委員会
☎32-5097

上条から最も近い茅葺伝建地区

白馬村青鬼（あおに）

国が選定する伝統的建造物群保存地区（重要伝統的建造物群保存地区）は、本年六月二十日付けで四〇都道府県・七十七町村・九一地区あります。

このうち、茅葺民家で構成されている地区は一〇ヶ所ていどで、まだまだ少ない状況です。

茅葺の民家は「山村集落」という種別に入ることが多いのですが、山村集落のすべてが茅葺集落というわけではありません。早川町の赤沢のように、山村集落であり講中宿でもあるという特殊な例もありますし、群馬県の中之条町六合赤岩という地区は、山村・養蚕集落で、上条地区と共通するものがあります。茅葺の集落とは異なります。

伝建地区は、武家町や商屋町、宿場町が多くを占めています。街道などの道に沿って、規則的に建物が軒を連ねる風景は、保存の対象として古くから注目されてきましたが、規則性と民家の密度が薄い山村集落は、どうしても民家にしか目が向かず、集落が立地する、より広い環境を忘れてしまいます。

周辺環境には、集落を支えた工作物なども含まれません。紹介する白馬村青鬼地区は、建築物二九件の小集落ですが、用水路や棚田を加えた結果、地区面積は六〇ヘクタール弱あり、同規模集落である菅沼地区（富山県南砺市）の一三倍以上です。

白馬村青鬼（山村集落）

所在地 長野県北安曇郡白馬村青鬼

種別 参村集落

条例制定年月日 平成一〇年六月二五日

選定年月日 平成一二年一二月四日

地区面積 約五九・四ヘクタール

保存物件数 建築物 二九件

工作物 二〇一件

環境物件 六件

白馬村は、長野県の北西部に位置します。国道一四八号が村を南北に貫き、その西側の山の斜面には白馬五竜・八方尾根・白馬岩岳などの有名な巨大スキーリゾートが開発されており、冬季長野オリンピックの会場にもなりました。ウインタースポーツだけでなく、夏も避暑地として多くの観光客が訪れています。

国道の東側は不思議と開発の手が及んでなく、山裾にのどかな田園風景が広がっています。青鬼地区は、その東側山間部の北部、北側に接する小谷村に近いところに所在します。

「青鬼」の地名の由来は定かではありません。青鬼地区の山を挟んだ東側には鬼無里村（きなさむら）があり、何か関係があるのだろうかといわれています。また、地区の北方には岩戸山があり、その中腹に「お善鬼様の岩屋」が残されており、その信仰は今でも続いています。



遠くに北アルプスを望む。



集落の中央には、民家が五軒並んで建っている場所があり、青鬼地区を代表する風景となっています。

青鬼地区の特徴は、集落の発展にとつて欠かすことのできない用水路をエリアに入れていくことです。用水路は青鬼上堰といい、万延・文久年間（一八六〇～一八六三）に当時の青鬼集落二十四戸によって造られ、延長約三キロメートルという大土木工事でした。この水路によって、地区には棚田が作られたとされ、棚田に築かれた石垣も、この当時のものと考えられています。

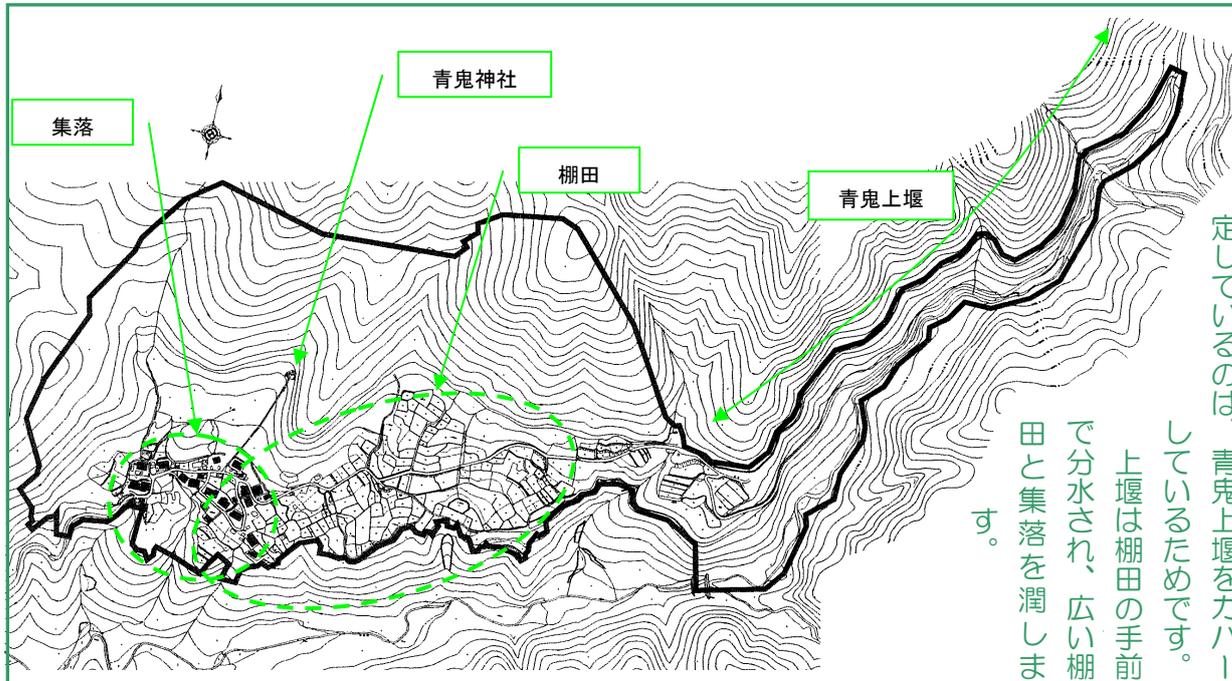
建築物二九件のうち主屋建築は一四件で、江戸時代後期から明治時代後期にかけて造られたものです。棟がやや小さい寄棟造・茅葺で、多くは正面の軒を切り上げて、二階の窓をあらわにしています。軒は総じて高く、豪雪地帯であることを感じさせます。正面の軒の切り上げも、雪対策になにか関係しているのかもしれませんが、平入りの壁面は漆喰が塗られ、甲州民家にもある「見せ貫（化粧貫）」が等間隔に並べられ、よい美観を呈しています。

左の図は、青鬼地区の保存区域です。地区には西（左側）から入る道がありますが、まず集落があり、集落北側の高い位置に青鬼神社が鎮座します。集落の一部にかかりながら、東側には棚田が広がっています。集落

ます。棚田より西に細長く区域を設定しているのは、青鬼上堰を力パ

しているためです。

上堰は棚田の手前で分水され、広い棚田と集落を潤します。



昭和三〇年代の白馬村は、観光産業の発展に伴い、旅館や民宿などの近代的な建築が進み、昔ながらの景観が急激に失われていきました。青鬼と同じような、東側山中にあった山村集落も徐々に姿を消していき、青鬼地区も過疎化が進み、幕末に二十四戸あった家も昭和六〇年代には十五戸に減少しました。

現在では、白馬村の中で、まとまった山村集落の形態を残しているのは、青鬼地区のみとなりました。

平成七・八年に、日本ナショナルトラストに委託し、大々的な調査が行われ、白馬村に残った唯一の山村集落が再評価されました。保存条例制定後の平成十一年には「青鬼集落保存会」が結成され、活動を進めています。しかしながら、鉄板で被せられた屋根を茅草に戻す作業は遅れているようです。



集落の北側に鎮座する青鬼神社。



青鬼神社の参道から見下ろした集落。



集落東側に広がる棚田の風景。



民家の形状(上)と、小路に築かれた石垣(下)

青鬼地区は、白馬村の中でも特にひっそりとした地区だといわれています。村の中心地から五キロメートルほどしか離れていないのに、見学したときには私以外の見学者はいませんでした。

それはさておき、集落の立地、建築物の数、周辺環境など、上条集落と共通する景観を多く有している伝建地区だと思えます。難点は道が細いことで、大型バスが入らず、マイクロバスが精一杯ということですが、いつかご案内できればと考えています。



5軒の民家が一線に並ぶ風景(上下)。